

# Report

Hokkaido Soil Research Cooperative Association

# SRC



2022. 11  
No. 397

ISSN 1342-1409

北海道土質試験協同組合広報誌



表紙写真 岡山橋  
[写真説明]

1936年竣工、岩見沢市幾春別川に架かる軟弱地盤に対応した鋼ソリッドリブ式タイド  
アーチ橋

---

目 次

---

1. 巻頭言 .....	1
株式会社 構研エンジニアリング 代表取締役社長 池田憲二 『桃次郎の冒険』	
2. 「北海道新篠津村での地盤調査一斉試験」に参加しました.....	3
3. 第10回ジオ・ラボネットワーク技術研修会報告.....	4
4. 土質試験管理者講習会参加報告.....	5
5. 令和4年度第5回理事会議事録.....	6
6. 第6回SRC理事長杯ゴルフコンペ報告.....	6
7. 安全運転管理への取組.....	7
8. お知らせコーナー.....	7
9. 部門別試験実績 .....	8
8・9月分	



## 『桃次郎の冒険』

株式会社 構研エンジニアリング  
代表取締役社長 池田 憲二

### 鬼の征伐

むかしむかし、桃太郎はおばあさんの作った黍団子を腰につけ、鬼の征伐に出かける。途中、黍団子を分け与えた犬、雉、猿を家来に従え、鬼ヶ島に向かう。悪い鬼たちをやっつけ、財宝を持ち帰って、おじいさん、おばあさん、村人たちは幸せに暮らしたとき。

ところがこの話には続編がある。あるといっても劇団四季の創作ミュージカルであるが、息子の小学校の学習発表会、昔でいう学芸会でそれを知った。衝撃的な内容であった。

桃太郎の持ち帰った財宝により贅沢な暮らしに慣れたおじいさんとおばあさんは、やがて墮落し、財宝が底をつき始めると、桃太郎の弟桃次郎に兄の活躍を話して聞かせ、お前も鬼ヶ島に行って財宝を奪って来いとけしかける。再びおこぼれにあずかろうとする村人たちにも見送られ、桃次郎は鬼ヶ島に向かう。

ところが桃次郎が鬼ヶ島で見たものは想像を絶するその後の世界であった。平和に暮らしていた鬼たちの所に侵略者桃太郎らが突然やってきて、虐殺と略奪の限りを尽くす。殺された鬼の子供たちは亡霊となり、また、生き残った鬼の子供たちも親や兄弟姉妹たちが殺され、孤児となっていた。彼らが歌う歌のなんと残酷で悲しいことか。

♪～おいらの父ちゃん真っ二つ、母ちゃん七つに刻まれて、おいおい(泣き声)～♪

征服者(勝者)の行動は征服者によって正義とされ、被征服者(敗者)によれば、それは極悪非道を受けた怨念になる。

### ロシアのウクライナ軍事侵攻

2022年2月24日、ロシアはウクライナへの軍事侵攻を開始した。ネオナチに迫害されている東部のロシア系住民を救うというのが理由だった。背景にはロシア人は、自分たちは偉大な民族であり、周辺の家や同胞たちを正しく導く義務があると信じている。ウクライナは西側の悪魔が差し出したNATOという毒リンゴを食べてしまった。彼らを解毒するために住宅、学校、教会、病院などの非軍事施設にも容赦なくミサイルを撃ち込み、解毒後は再びスラブの同胞として抱擁してやろうというのだ。(2022年4月14日付け朝日新聞の前北大スラブ研センター長岩下明裕教授へのインタビュー記事参照)

それは勝手に鬼ヶ島の鬼は悪い奴らだと解釈し、やっつけようするどころの言い分ではない。

その一方で今回の軍事侵攻の原因はNATOの東方拡大にあるとの見方もある。1962年に旧ソ連がアメリカの喉元、キューバにミサイル基地を建設していることが発覚、米ソが一触即発の事態に陥った。今回はその逆を西側がやってしまったというのだ。

### 北海道も危なかった

話は少し変わって、1993年10月13日、当時のエリツィン大統領が来日した。来日を控えた国内では北方領土が返還されるのではと、大いにその機運が高まった。その一環として、訪日の少し前に旧北海道開発庁の高官がフィンランドに出張してきた。その目的はオーランド諸島の自治について調査することであった。

フィンランドとスウェーデンの間、バルト海に両国が帰属を争ったオーランド諸島というのがある。もともとはフィンランドの一部であったがフィンランドそのものがスウェーデン王国の一部だったし、戦争でスウェーデンがロシアに負けて諸島はフィンランドごとロシア領になったりと複雑な歴史の地域である。住民は全てスウェーデン人であることから、1917年にフィンランドがロシアから独立を果たす際に、住民はスウェーデンへの帰属を求めた。これを裁定したのは当時の国際連盟事務次長の新渡戸稲造である。裁定はオーランド諸島をフィンランド領とするが、非武装中立とし、高度な自治を認めるというものである。この自治の方法が将来、北方領土がロシア系住民ごと日本に返還された場合の参考になるだろうことであった。当時の外務省と旧北海道開発庁の間に、返還までは外務省が担当するが、返還後は北海道開発庁が北方領土の面倒を見るとの密約があったそうだ。

大使館の業務からいうと政務班が担当すべき案件であったが、私の出身官庁からの出張者であることから、フィンランド外務省の担当官やオーランド選出国会議員とのアポ取りや設宴など、経済班の私が担当した。

もし、あの時、ロシア系住民ごと北方領土が返還され、後に彼らが北海道にも移住し、そこで日本人に迫害されていると騒いだらどうなっていたことか。今頃、ロシアからミサイルが北海道に飛んできて、戦車が上陸してきたかもしれない。なんて恐ろしいことか。

### 日中戦争と太平洋戦争

歴史上の残虐な行為は桃太郎やロシアに限らない。日本もアメリカもやってきた。

1938年12月から1941年9月にかけて、日本は繰り返し重慶を爆撃した。中国側の資料では1万人を超える民間人の死者が出ているというのに対し、目標は中華民国政府の中枢部と軍事施設であり、戦争犯罪ではないという日本の言い分もあるようだ。そもそも日本がこの戦争を始めたのはアジアを欧米の植民地から解放するのが目的であったし、さらにアメリカに対して宣戦布告したのも欧米がやってきたのと同じように国外に権益を確保しようとしたら、禁輸制裁や軍縮を押し付けられ、最後はハル・ノートによる無理難題によって開戦を強いられたからだという言い分がある。戦争を始めた方も始められた方も、勝った方も負けた方も、それぞれに言い分があり、それは正反対なのだ。どちらが正しいのか。それは勝った方が正しく、正義になってしまうのだ。

ところで重慶爆撃であるが、勝者の論理で裁かれた極東軍事裁判において有罪無罪どころか、起訴すらされなかった。これを戦争犯罪にしてしまったら、東京大空襲や広島長崎への原爆投下は戦争極悪犯罪になってしまう。アメリカにとって、これらの行為は戦争を早期に終結させるための正しい行為であり、正義ということなんだろう。

勝手な言い分で戦争を正当化させないためには、世界中で「桃次郎の冒険」の海外公演を劇団四季にお願いするしかないのだろうか。

## 「北海道新篠津村での地盤調査一斉試験」に参加しました

業務管理部 中川範彦

大阪公立大学の<sup>○</sup>大島明彦教授が主催の「北海道新篠津村での地盤調査一斉試験」に当組合も参加しました。大島教授は、全国数多くの地域で一斉試験を実施しており、北海道では過去に厚真町で一斉試験を実施されています。

一斉試験は札沼線旧石狩金沢駅付近の新篠津村に位置する(有)高橋ピートモス工業の泥炭採取地内で実施されました。調査地点の土質は表層から5mまで泥炭が分布し、その内上部2mは分解程度が低い繊維質の泥炭になっています。それ以深は、調査深度25mまで基本的に粘性土が分布しています。粘性土部分に関しては、部分的に砂層や砂分が卓越する箇所が見受けられます。

今回の一斉試験の目的は、機械式コーン貫入試験が北海道の泥炭地の調査で標準的なものとなっていますが、それ以外のサウンディング試験と比較した例が少ないため、本試験と他試験の比較を主目的として、北海道の泥炭性軟弱地盤での各種原位置試験、室内試験の比較検討をすることを目的としています。

一斉試験には2大学、民間企業11社が参加し、ボーリング調査、室内試験、原位置試験を実施しました。ボーリング調査はSPTとシンウォールを連続採取して物理▶力学試験を実施、原位置試験は以下の様に多種多様な試験を実施しました。

スクリーウエイト貫入試験(SWS試験)、スクレイドライバーサウンディング試験(SDS試験)、大型動的コーン貫入試験(H-DCPT)、中型動的コーン貫入試験(M-DCPT)、ピエゾドライブコーン試験(PDC試験)、簡易動的コーン貫入試験(PDCPT試験)、RIコーン貫入試験(RI-CPT試験)、機械式コーン貫入試験(CPT-M試験)、原位置ベーンせん断試験、表面波探査(起震機方式)、平板載荷試験これらの試験の内、当組合ではシンウォール試料の

抜き出し観察、湿潤密度測定、物理試験、機械式コーン貫入試験(CPT-M試験)を実施し、RIコーン貫入試験(RI-CPT試験)、原位置ベーンせん断試験については貫入作業を担当しました。

普段の業務では実際に目にする機会が少ない原位置試験が多数で、現場職員の知識向上、人脈形成の良い機会になりました。

今回の一斉試験結果については、各種学会や技術フォーラムなどで各社随時発表されていくと思いますので、ご興味のある方は発表を注目しておいていただきたいと思います。



現地での一斉試験状況

## 第10回 ジオ・ラボネットワーク技術研修会参加報告

技術部 平 伸明

第10回ジオ・ラボネットワーク技術研修会が9月6日(火)に昨年と同様にオンライン形式で開催されました。研修会内容は各組合のトピックス、技術発表の他、関東土質試験協同組合の杉田技術顧問より『関東の地盤を知ろう!!』との話題提供をいただきました。

北海道からのトピックスでは泥炭性軟弱地盤の一斉試験参加、高圧受電設備更新、新人採用について報告させていただき、各組合からは新人社員紹介、更新設備や講習会実施状況の報告、効率化や人為的ミスの対策として、写真看板を含む受注管理ソフトの開発、電子黒板の導入などの運用状況の報告をしていただきました。また、使用している機械制御、整理ソフトのメリット・デメリット等の意見交換が行われました。

技術発表は土質屋北陸から『2022技能試験の考察』、関東土質試験協同組合から『ハイパースペクトルカメラによる土の判別法』についての発表をしていただきました。毎回同じ顔ぶれという意見もあり、若手中心の参加を促す声もありました。

話題提供では、関東地方の代表的な地層について説明していただき、ドイツの地質学者が最初に『ローム層』と命名したなど、非常に興味深い話題を提供していただきました。今回は研修後のオンライン懇親会は行われませんでした。次年度は対面形式にて行われることになり楽しみにしております。



参加者の皆様とスクリーンショット

## 土質試験管理者(養成・更新)講習参加報告

技術部 平 伸明

土質試験品質確保機構主催の土質試験管理者(養成・更新)講習会が中部土質試験協同組合で行われ、金井係長とともに参加してきました。

現在、地質調査に関わる資格は多くあり、化学分析業や大規模な土木工事では、その資格者の責任・権限が明確にされています。しかしながら土質試験を生業とする場合、土質試験規格としてはJISやJGSをはじめとした数種類の試験規格がありますが、土質試験実施者に求められる資格は残念ながら存在しておりません。

土質材料は自然由来の材料であることが多く、ばらつきが大きいいため土質試験結果に関わる様々な課題を抱えており、それらの課題を解決するために、土質試験者の持つべき素質として、以下の事項を持つ必要があると考えられます。

- (a) 土質調査に関する基礎的知識
- (b) 土質試験結果を品質保証する力
- (c) 高い技術力と技術者倫理
- (d) 試験技術や豊富な知識を次世代につなぎ、育成する意欲
- (e) 土質試験技術者の地位向上に繋げる意欲
- (f) 土質試験が必要となるプロジェクトとの関わりを理解する力

以上のような、土質試験に精通し、かつ土質試験に関わるコンサルタントができる技術者が認定試験に合格すると土質試験管理者が付与されます。

今回の講習はⅡ部構成で行われ、(株)シマダ技術コンサルタントの坪田技術管理部長からの土質試験管理者、倫理、土質試験の役割についての講習に始まり、関東土質試験協同組合の杉田技術顧問より土質試験の品質向上、マネジメントについて、最後に中部大学の杉田先生から室内土質試験の歩みと未来について、実際に実験した土質試験データを参考に、話題を提供していただきました。

普段の業務から試料状況や試験結果には注視し、特異なデータ等についての顧客へ説明や試験内容の相談などの技術的な対応は心がけているつもりではありますが、今回の土質試験管理者講習を受けて、現在は技術だけを追求するだけではなく、法的・社会的規範行動に関する責任を自覚する必要があることや、施設環境インフラについての重要性を再認識いたしました。現在、当組合では土質試験管理者は3名在籍しております。それぞれの職員が土質試験者としての役割を認識し正確で高品質の試験結果を提供できるよう日々努力していきたいと考えています。

## 令和4年度 第5回理事会 議事録

1. 開催日時	令和4年9月15日(木) 午後1時30分
2. 開催場所	組合会議室
3. 理事の総数	7名
4. 議事の経過の概要	<p><b>議案(1) 事業報告</b></p> <p>令和4年度8月の事業実績資料に基づいて報告した。売上げは計画を上回っており、原価および一般管理費は昨年より若干増加しているが、原価率は昨年より低下していることが報告された。今後の受注状況についても昨年度より若干多く推移していることが報告された。</p> <p>(有)共同土質試験の営業実績についても審議し、売上げは計画を上回っていることが報告された。</p> <p><b>議案(2) その他</b></p> <p>ア. 燃料手当について審議し、支給を決定した。</p> <p>イ. 関根理事長、折笠専務理事の2名が10月28日(金)に開催されるジオ・ラボネットワーク経営懇談会臨時会に出席することを報告した。</p> <p>ウ. 9月10日(土)に開催された第6回SRC理事長杯ゴルフコンペの開催結果を報告した。</p> <p>参加者21名 優勝者 田岡清志氏((株)開発調査研究所)</p> <p>エ. 組合電源設備更新のため11月15日(火)～11月17日(木)の3日間が全館停電となることを説明し、原位置試験以外を休業とすることを決定した。</p> <p>オ. 次回理事会は、令和4年10月26日(水)に開催することを決定した。</p>

## 第6回SRC理事長杯ゴルフコンペ報告

第6回SRC理事長杯ゴルフコンペは、9月10日(土)に恵庭市の札幌エルムカントリークラブで開催することができました。参加者は組合員、組合役職員総勢21名で清々しい青空の中スタートし、和やかに皆さん親睦を深め楽しいゴルフコンペとなりました。

第6回の優勝者は㈱開発調査研究所の田岡 清志氏、準優勝者は同じく㈱開発調査研究所の渡辺 彰彦氏でした。

来年度も是非多くの組合員皆様のご参加を心よりお待ちしております。



参加者の集合写真



優勝者の田岡氏と舟田理事



## 安全運転管理への取り組み

安全運転管理者 山内一則

2022年4月に道路交通法施行規則第9条が改正され、安全運転管理者は従来の義務に加え、『アルコール検知器を用いた運転前後の酒気帯び確認』、『アルコールチェックの記録(1年)と常時有効性の確認』の2項目が追加されました。業務上の酒気帯びとなれば、所属する会社にも処分がなされる可能性があります。当組合では、飲酒運転防止規定を制定し、車両通勤登録者、業務上車両使用者については、出社時と帰社時にアルコールチェックを実施しており、宿泊を伴う出張時は携帯型チェッカーを用いて管理を行っています。引き続き、職員一同、組合員の皆様に迷惑の掛かることのないよう、業務や日常を問わず運転に影響を及ぼさないように適正飲酒につとめていきます。厳しい罰則が科せられるとは言え、ニュースでは毎日のように飲酒運転による事故が見られます。皆様も飲酒運転とならぬよう適正な飲酒を心がけましょう。



## 組合員代表者変更について

下記の組合員に代表者の変更がありましたのでお知らせいたします。

記

川崎地質株式会社北海道支店

(新) 支店長 吉田 透

(旧) 加藤 猛士 令和4年9月

## 新職員が仲間に加わりました

当組合技術部に新職員を迎えました。皆様の温かいご指導をよろしくお願いいたします。

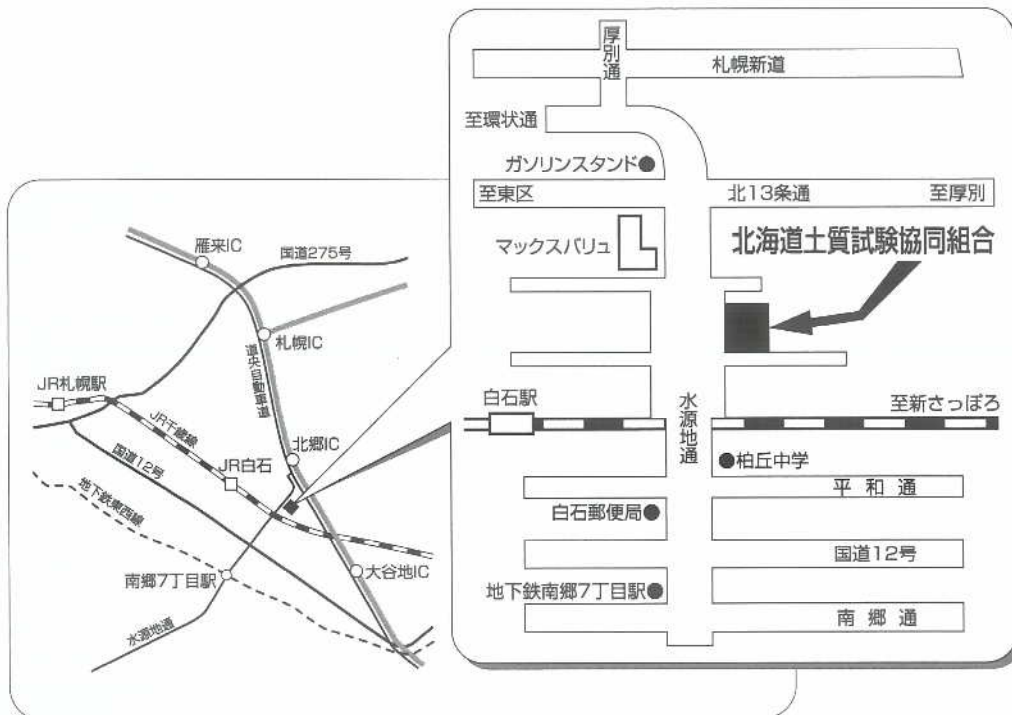
氏名: 海津 大(カイツ マサル) 生年月日: 平成5年1月29日(29歳)

出身地: 北海道札幌市 最終学歴: 酪農学園大学環境共生学類野生動物学コース

採用日: 令和4年10月16日

自己紹介: 10月から正式に北海道土質試験協同組合の職員として採用されました海津と申します。大学生時代は動植物に関する環境調査の学部を専攻していました。土質試験の仕事は、世の中のインフラに関わる大事なものであり、社会に大きく貢献できるということでこの仕事を選択しました。かなり専門的な分野で覚えることが多く大変ではありますが、日々知識、経験ともに一つ一つ地道に積み重ねていき、組合員皆様に正確なデータを提供して参ります。よろしくお願いいたします。





### ① 高速道路を利用した場合

旭川方面から 札幌IC出口より 約10分

小樽方面から 大谷地IC出口より 約10分

室蘭方面から 札幌南IC出口より 約15分・北郷IC出口より 約8分

### ② 国道を利用した場合

旭川方面から 国道12号から水源地通りを右折

小樽方面から 札幌新道(国道274号)から厚別通りを右折し水源地通りを左折

室蘭方面から 国道36号から水源地通りを右折

### ③ 公共交通機関を利用した場合

JRを利用した場合 JR白石駅下車、徒歩約15分

地下鉄を利用した場合 市営地下鉄東西線、南郷7丁目駅下車、徒歩25分

又は、北海道中央バス(白25番)に乗り継ぎ、北郷2条8丁目下車

● 発行所  
北海道士質試験協同組合

〒003-0831 札幌市白石区北郷1条8丁目3番1号  
TEL 011-873-9895 (代表)  
FAX 011-873-9890 (総務部)  
FAX 011-874-1910 (技術部)  
ホームページアドレス <http://www.src.or.jp/>

地質調査業者登録  
土壌汚染指定調査機関登録  
ISO/IEC17025:2005認定登録

● 発行日

第397号 令和4年11月15日

● 編集責任者

折 笠 章

● 印刷

㈱エーシーピー TEL 231-7575

